平成２９年度

「光り輝く商店街発掘・創出事業」

七日町通りまちなみ協議会

リノベーション事例集

平成３０年３月

「光り輝く商店街発掘・創出事業」の概要

現状と課題

○大型店の進出、ネットショッピングの浸透、多様化する消費者ニーズへの対応の遅れ等に加え、震災及び原子力災害の影響により、**まちの顔である商店街は、賑わい・魅力を失いつつある状況。**

○「買い物」だけで大型店やネットショッピングに対抗することは極めて厳しく、**街並みや店舗の雰囲気、サービス内容を刷新**し、**まち歩きやお店めぐりを楽しんでもらう**ことが、商店街の存続、**まちの魅力向上**にとって重要。

- 大型店の進出、郊外・拡大型のまちづくり　等
- ネットショッピング、宅配サービス等の浸透　等
- 震災及び原子力災害の影響（来街者、売上　等）

- 店主の高齢化
- 後継者不足
- 投資意欲等の減退
- 消費者ニーズへの対応の遅れ
- 組織力の低下

事業内容

商店街への**覆面調査**を実施し、**外部の目で発見した課題を改善するとともに商店街が保有する資源を磨きあげながら魅力を向上させるためのプランを提案**し、商店街をまちの魅力の核とする。

1　商店街への覆面調査　【6～8月頃】

～外部の目線で課題や強みを発見～

- 商店街に覆面調査員を派遣し、接客態度、メニュー・品揃え、内外装等に関する課題や強みとなり得る資源を調査。
- 覆面調査は、調査日時や調査員の身分を明かさずに実施することを想定。

2　リノベーションプランの提案　【8～10月頃】

～覆面調査の結果をもとに魅力向上の方策を検討～

- 覆面調査の結果等をもとに、各分野の専門家が分野別のリノベーションプランを店舗ごとに提案。
- まちづくりプロデューサーが分野別リノベーションプランをまとめ、商店街及び各店舗に提案。

3　リノベーションプランの実現　【10～2月頃】

～リノベーションプランの実現に要する費用の一部を県が支援～

- 商店街全体又は各店舗がリノベーションプランの全部又は一部を年度内に実現しようとする事業に対し、予算の範囲内で県が補助金を交付。

補助率3/4以内
地域全体で1,200万円以内

4　事例集の作成　【2～3月頃】

～リノベーション実現までの過程を県内全域で共有～

- 専門家によるリノベーションプランの内容と商店街による実現内容をリノベーション事例集としてまとめ、県ホームページで公表。
- 県内全域で事例を共有し、外部の目線を活かしたリノベーションまちづくりを促進。

※　1、2、4は委託事業として実施、3は県が直接補助金を交付。

七日町通りまちなみ協議会

商店街の紹介

1)所在地／電話番号

会津若松市日新町17-15 事務局:H&T株式会社／

0242-23-9611

2)設立年次

1994年(平成6年) 3月。空洞化した会津若松市の中心市街地にある七日町通り商店街の再生とコミュニティの再構築を目指して、1994年3月に七日町通りまちなみ協議会を立ち上げた。設立にあたってはこの会が住民運動の一環であることから、七日町7町内の区長に顧問として参画してもらった。レトロな町並み景観を基軸としたまちづくりに取り組み、会津若松市におけるまちなか観光のモデル地区にまでなった。2018年現在、事業所、個人合わせて107名の会員を擁している。協議会は設立当時のまま、法人格をもたない任意団体である。

3)会の運営に対して心がけている点

町並み景観の深化と景観に対する住民意識の向上。
その延長線上にある商店街の活性化と賑わいの創出。
会員相互の密なる連携を心がけている。

専門家による調査結果の概要

七日町通り沿いには、歯抜けの駐車場があり、街路をスケスケにしている。また、各店舗のデザインの個性は保ちつつ、のれんによる統一感の演出がみられる。木製の壁、格子、建具等、趣のある店舗も多い。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

素材を積極的に使いながら、コストをかける改修が難しい場合も空地に木の壁を設置するなどして効率よく景観を向上する工夫を行う。また、アーティストに各店舗の特長をふまえたのれんをデザインしてもらい、設置する。

またインバウンド向けの広告を作成する。

リノベーション後に対する期待

統一感のあるのれんの設置は七日町の課題だった。七日町通りの特徴づけになるものと思う。通りの建物の修景は着々と進んではいるものの、駐車場や空き地については景観的に遅れをとっていた。今回、ブロック塀を板塀化する取り組みは地域住民への景観に対する啓発にもなるのではないか。

新たに英語で表記したパンフレットとホームページは年々増加している外国人にとって役立つものと期待している。

今後の展望

阿弥陀寺や常光寺などを核とした門前町構想の具現化に取り組みたい。

短期的には、来街者にもわかりやすいサイン計画の実施、七日町にふさわしい町並み景観のさらなる深化と樹木の植栽が課題。

中長期的には、ますます中心市街地の高齢化が進む中での新たな発想に基づく商店街の構築。また、これまでの商店街の概念を変えるような大胆な取り組みも検討している。商店街を一つのマルシェにしたい。

リノベーションプランの実現内容

・商店街の統一感を醸すため、染色デザイナーによる「のれん」の作成。
・インバウンド（外国人観光客の誘致）に対応した英語併記のホームページのリニューアルと案内パンフレットの作成。
・通りの景観に配慮した板塀の設置。

会長：渋川 恵男さん

■実施事例

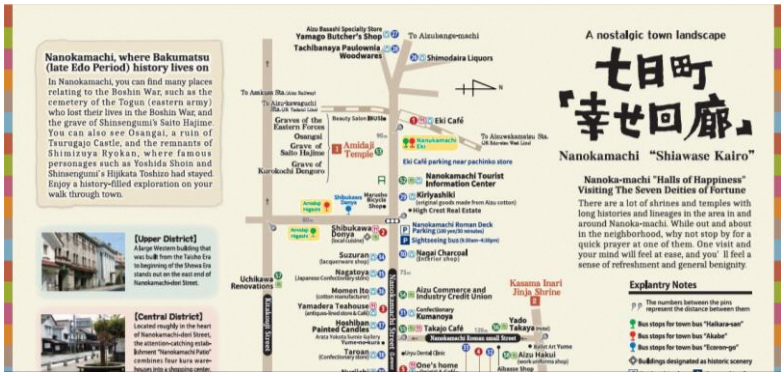
◆板塀設置

実施前

実施後

板塀設置／七日町通り沿い駐車場

◆新規英語版案内パンフレット



◆のれん（13店舗・施設で実施）

実施前

実施後

桐屋紙器

ぬりー　七日町店

宿たかや

専門家からのコメント

板塀の設置は予算の都合もあり、一部に留まっているが、継続的に続けていくことで街に変化をもたらすことができる。
パンフレットは、今後増えるインバウンド対応にグラフィックを分かりやすくした。
のれんは各店舗の個性がグラフィックに出ており、通りを散策しながら楽しめる。

渋川問屋

店舗の紹介

1）所在地／電話番号
福島県会津若松市七日町3-28／0242-28-4000
2）創業年次
1887年（明治20年）。かつては海産物問屋として営業していた店舗を1975年（昭和50年）に郷土料理店として業態転換したもので旅館を併設する。
3）店舗の営業
会津郷土料理店兼旅館
4）店舗の特色
明治・大正期に建設された食事処で、会津の郷土料理を愉しむ。
5）営業時間／定休日
11:00～21:00／無し
6）商店街の中での特色
歴史ある建物での郷土料理の提供
7）経営に対して心がけている点
古いものを活かしながら、歴史や伝統的なものを愉しんでいただく様に努めます。

専門家による調査結果の概要

木の竪繁格子壁と、間口を絞った入口のバランスがよく、のれんがアイストップになり、良い。通り抜け小径が非常に効果的で、所々にある緑が雰囲気作りを寄与している。視線の抜け方の微妙なカーブも良い。陰陽のバランス、緑と砂利や石のバランス等、素晴らしい雰囲気づくりを実施している。一方で、トイレの手洗い水洗器の水量が少ない、また夜間、ブラケットが1灯しか点灯していない等、設備の整備が必要。

専門家からの改善提案（リノベーションプランの内容）

敷地境界にオリジナルの洗い出し床が残っている。のれんをくぐった先の床も、元来の洗い出し床に変更した方が好ましい。また女性が化粧を直せるスペース等、洗面台スペースのグレードを建物の雰囲気に合わせる。備品等のグレードを上げる。

リノベーション後に対する期待

利用者に感動を与えることを期待する。

今後の展望

古い部分は活かしながらも、老朽化した部分については補修やリノベーションを加えて使い勝手を良くしていきたい。
七日町通りまちなみ協議会に対しては、行政の支持や助成などのサポートのもと、個々の店舗の取組みだけでは不十分となるまちなみ全体での改善を進め、より統一感あるまちへと主導していくことを期待している。

リノベーションプランの実現内容

・入口エントランス部の土間に黒那智石による荒い出し加工を施工。
・トイレの建具枠等にクラシカルな装飾を施工。

店主：渋川 義満さん

■実施前

既存土間コンクリート／エントランス

既存土間コンクリート／エントランス

既存建具枠／トイレ

■実施後

新規洗出し／エントランス

新規洗出し／エントランス

新規建具枠／トイレ

専門家からのコメント

黒那智石による洗出しの床にすることで、当時の趣ある玄関になった。またトイレ建具枠も細かい変更ではあるが、トイレのアクセントとなっており、以前より印象が良くなった。

駅カフェ

店舗の紹介

1）所在地／電話番号
　福島県会津若松市七日町5-1／0242-39-3880
2）創業年次
　2002年（平成14年）
3）店舗の営業
　地場産品の販売、喫茶、観光案内、情報発信
4）店舗の特色
　会津地方はとても広いので、そのお店と当店のみでの販売というような商品を揃えている。
5）営業時間／定休日
　9:00～18:30／元日
6）商店街の中での特色
　会津のPRだけではなく、地域の他店への誘導や紹介を行っている。
7）経営に対して心がけている点
　お客様のニーズに合わせながらも、地域のまだ紹介されていない魅力あるものを発信、販売していく。

専門家による調査結果の概要

内外共に大正ロマンの雰囲気を感じさせるデザインで良い。一方で、店内は視線を妨げる情報、商品が多く、駅通路側の曇りガラスで外から中の様子が見えにくい。照度も低いため、室内が暗く、見通しが悪く、商品も見えにくい。また、中央のテーブルが、お客様の動線上にあるので、少し使いづらい。

専門家からの改善提案（リノベーションプランの内容）

通路側から店内が見えるようにし、外から店内の雰囲気が感じられるよう、照明の位置を刷新し、店内を明るくする。また、店内レイアウト、商品ゾーニング、商品ディスプレイを刷新することで、よりお客様が店内を利用しやすくする。

リノベーション後に対する期待

これまでの冬季半年間は、夕方16時以降の売上げが下がっていた。照明の刷新で店内が明るくなったことにより、お客様が買い物し易くなり、売上げが上がることに期待したい。

今後の展望

店内が明るくなり、外からも中の様子が見えるようになったので、喫茶のお客様のプライバシー保護のためガラスに一部目隠し用のシートを貼りたい。長期的には、床の老朽化が激しいので、修繕したい。
七日町通りまちなみ協議会に対しては、今後も通りの店舗が一丸となって高めあえる運営を期待している。

リノベーションプランの実現内容

・駅通路側曇りガラスを透明ガラスに刷新。
・老朽化した店内の壁天井の白塗装を刷新。
・大正ロマンの雰囲気を損なわないよう、店内の天井照明をモールディングを施しながらシンプルな照明に刷新。
・天井に同調する白いシンプルなデザインの高性能LEDスポット照明に刷新。
・駅ホーム側にカウンター席を設置。
・壁にディスプレイ棚を新設。
・店内ゾーニング、ディスプレイ、商品レイアウトを刷新。

店主：佐藤 安子さん

■実施前

駅通路側既存曇りガラス

既存ディスプレイ／天井照明

既存吊照明

■実施後

駅通路側新規透明ガラス（夜間）

新規ディスプレイ／天井・スポット照明

新規ダウンライト

専門家からのコメント

老朽化した天井・壁の白塗装を刷新したことによって、照明の光も以前より効果的に空間を明るくしている。
また、店内ディスプレイ、ゾーニング、商品レイアウトを刷新したことによって、以前よりディスプレイする商品を取捨選択する必要が生まれ、より店舗の特長がお客様に伝わりやすくなった。
駅通路側ガラスにプライバシー保護のため一部目隠し用のシートを設置、店内の照度／色温度差をなくす照明の配灯、さらなる商品の厳選、カウンター席に県外からのお客様用に充電用コンセントの設置などリノベーションをすることでの課題も見えてきた。

ぬりー七日町店

店舗の紹介

1）所在地／電話番号
福島県会津若松市七日町3-36／0242-85-7211
2）創業年次
1910年（明治43年） 4月。2010年(平成22年)に七日町店を開店。本社は会津若松市中央1丁目4-12／0242-25-0151
3）店舗の営業
漆器全般、漆家具
酒類小売
4）店舗の特色
広い店舗に多様な品揃え
5）営業時間／定休日
10:00～17:00／なし
6）商店街の中での特色
見るだけでも楽しい店
7）経営に対して心がけている点
一期一会の心での接客。圧倒的な品揃え。

専門家による調査結果の概要

ディスプレイが丁寧で整頓され好印象。商品数は多いが、同種のものをまとめて陳列しているので見やすい。また適度にスペースをとって陳列されている。一方で、1階の天井照明がバラバラ。器具の色温度は統一したほうが良い。また、屋外のモノや格子で店内が見えにくくなっている。

専門家からの改善提案（リノベーションプランの内容）

店頭の張り紙や広告、格子等で、ショーウィンドウから商品が見られないので、中の商品の様子を垣間見られるようにする。また、低木程度の植栽を新たに植樹する。1階の照明器具は、スポットライト、蛍光灯、吊照明と煩雑なので、LED化を行いながらシンプルな印象になるように統一する。
店内は、垂れ壁で2部屋に分節されているが、刷新すべき。

リノベーション後に対する期待

店舗全体を見渡すことが出来る空間になった。
観光客は勿論のこと、地場のお客様に対しても積極的に新店舗をPRして行きたい。

今後の展望

今のところ特に考えていない。
七日町通りまちなみ協議会に対しては、大正ロマンの街にするためのまちづくりを継続してほしい。

リノベーションプランの実現内容

・外部木製建具格子を撤去。
・天井からの照明に統一感をもたせ、色温度を暖色系に統一。
・店内奥の間仕切りを撤去し、より広い店舗空間にする。

店主：高橋 睦美さん

■実施前

既存建具／外観

既存植栽／外構

既存照明、奥間仕切壁／店内

■実施後

新規建具／外観

新規植栽／外構

新規照明、奥間仕切壁撤去／店内

専門家からのコメント

外部木製建具の格子を撤去することで、外から中の様子が伺い易くなり、中からは外が望め、明るく広く感じるようになった。また新規植栽の竹も店内から風で揺れる様子が見え、室内環境を良くしている。
店内の照明を刷新することで、より温かみのある店内となった。
また間仕切壁を撤去することで、売り場面積が増え、お客様が以前より買い物し易い環境となった。

宿たかや

店舗の紹介

1）所在地／電話番号
福島県会津若松市七日町5-25／0242-22-2265
2）創業年次
1950年（昭和25年）3月
3）店舗の営業
店主の祖母が始め、三代続いている。
4）店舗の特色
純和風の宿
5）営業時間／定休日
16:00～10:00／不定休
6）商店街の中での特色
短期出張者向けに和室を提供している宿泊施設
7）経営に対して心がけている点
会津らしい古里に帰って来たと思ってもらえるようなおもてなし

専門家による調査結果の概要

外部では、妻入りに対して、勾配のある下屋を設け、エントランスの演出をしており、中庭の木々、竹が外観に対してアクセントになっている。
一方で、外に対して開いている開口部が少なく、建物裏にある「たかや接骨院」の看板のほうが目立っている。
内部では、1Fのいろりの間、食堂でお客様が朝食を食べる際、狭い。

専門家からの改善提案（リノベーションプランの内容）

「箱膳」でお食事を提供するには、手狭になってきている食堂は、現在空き部屋となっている部屋まで拡張して有効活用し、より多目的に部屋を使用できるようにする。

リノベーション後に対する期待

食堂部分が広がり、昼のお客様も受け入れる事ができる。宿泊客だけでなく、昼の集団客や七日町に来ている観光客に食事を提供していく。

今後の展望

今回リノベーションした先にある部屋に手を加え、くつろぎの空間を広げたい。
七日町通りまちなみ協議会に対しては、色々と勉強させて頂いていることが多く、個人では難しいことを皆さんと共有してやることができ感謝している。今後も継続していきたい。

リノベーションプランの実現内容

・空き部屋を座敷として拡張。既存の座敷の内装デザインを踏襲し、空間が繋がっているようにする。
・既存引き違いサッシをはめ殺しサッシに変更。あわせて目隠し用の建て格子を玄関の竪格子と同じデザインにすることで、統一感を出す。
・その他西側サッシに対しても木製格子を設置。

女将：山内 恵子さん

■実施前

既存サッシ、竪格子／エントランス

既存座敷

既存居室

■実施後

新規サッシ、竪格子／エントランス

新規増築座敷

新規客間転用

専門家からのコメント

大工さんの配慮により、既存座敷と同じ内装の部屋として拡張することができている。一体的な利用や個室利用、お昼のお客様への対応など、様々なお客様への対応が可能となった。
また、その他、自己負担で、玄関の置物台や夜間のサイン代わりとなる行燈の設置など、取組まれている。

Teppanyaki あいづ家

店舗の紹介

1)所在地／電話番号
福島県会津若松市七日町2−51／0242-29-0371
2)創業年次
2009年(平成21年) 6月
3)店舗の営業
飲食業、鉄板焼レストラン
4)店舗の特色
外よりカウンター席が見え、フランベの炎等が見える
5)営業時間／定休日
11:30～13:30LO　18:00～21:00LO／月曜日
6)商店街の中での特色
会津産の食材にこだわり、会津唯一の鉄板焼
7)経営に対して心がけている点
会津内外のお客様に食を通じて、会津の魅力を発信する

専門家による調査結果の概要

カウンター席と玄関の位置関係がよく、外から中の様子が分かりやすい。テーブル上のメニュー、壁に掛けているメニュー表、室名のサインプレートが店内の雰囲気に合っていない。客席からバックヤードが見える。玄関の蛍光灯が店内の他の照明の色温度(電球色)と合っておらず、玄関天井のアート作品に蛍光灯が映りこんでいる。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

玄関の蛍光灯だけ店内照明の色温度(電球色)と異なるので調整が必要。扉に付いているサインが店内のイメージと合っていないので刷新する。メニュー表(テーブルの上、壁)も同様、刷新の必要がある。
また、お客様から見えないように、バックヤードに対してのれんのような目隠しを設置する。
現在客席として使用されていない座敷を、有効活用できるように、障子を刷新する。

リノベーション後に対する期待

ハード面の改善により、店内の統一感が出た。お客様がより一層入店しやすい店舗にしていきたい。

今後の展望

現在のデッドスペース(和室)の活用、繁忙期のカフェ営業、テイクアウト商品の開発を行う。また、和室の活用、物販スペース、ギャラリースペース、正面から飲食店のアイキャッチ方法を改善したい。
七日町通りまちなみ協議会に対しては、商店街の発展の為、牽引し、若者や外部の意見を取り入れて欲しい。

リノベーションプランの実現内容

・玄関折上げ天井の蛍光灯の刷新、照明の色温度の調整。
・トイレ等の部屋名サインの刷新。
・メニュー表（テーブルの上、壁）の刷新。
・バックヤードに対する目隠しを設置。

店主：佐藤 学さん

■実施前

既存照明／カウンター・エントランス

既存サイン、目隠し／トイレ

既存メニュー表

■実施後

新設照明／カウンター・エントランス

新規サイン、目隠し／トイレ

新規メニュー表

専門家からのコメント

エントランスは既存蛍光灯より、照明を刷新することによって、空間全体が同じ色温度の光になり、より温かみのある空間となった。

その他、メニュー、サイン、目隠しのれん等、細かい改善ではあるが、どのようなお店かお客様に伝えるには重要な点である。今後とも、細かい改善を積み重ねていくと良い。

七日町通りまちなみ協議会のリノベーション計画について

まちづくりプロデューサー
中村 航（なかむら こう）

【プロフィール】
2005年　早稲田大学工学系研究科修了
2008年　同大学博士後期課程単位取得退学
2007年～2009年　早稲田大学助手
2010年～2016年　東京大学助教
2017年～　明治大学IAUD教育補助講師
建築設計事務所主宰
一級建築士・博士

平成29年度「光り輝く商店街発掘・創生事業」では七日町通りの対象店舗のうち、5店舗がリノベーション事業を実施したほか、まちなみ協議会による通り全体でデザインを統一したのれんの製作・板塀の設置・英語対応の新しいパンフレット製作を実施した。今年度、専門家として、特に街並みに寄与するリノベーション提案を重点的にさせて頂いたが、予算が限られる中、実施された各店舗のリノベーションにはそれぞれ非常に効果を感じることができた。

ひとつの柱は通りへの顔づくりであった。その点で、ガラス周りを整理し視認性を高めたり、外構と合わせて好感の持てるファサードを構成したりするだけで、店舗及び通りの雰囲気はガラッと変わる。近年は、通りに対してのオープンさが、店舗に求められる基本的かつかなり重要な要素と言って良いが、それが実現された店舗は確実に効果があがっていたようだ。

店舗内の商品の陳列やレイアウトを整理された店舗は、客動線もスムーズになり、店内のオープンさも相まって商品・店内がより魅力的に見えるように改善された。同時にいくつかの店舗で照明を整理した。照明は、明るすぎてもダメ、暗すぎてもダメであるが、年月が経って増設が繰り返されると色温度が違う機器が混ざってしまう。それによって商品の見え方がだいぶ変わってしまう（ゴチャゴチャしてしまう）ので、色温度を揃え、演色性の高い光源で統一することが基本（照明機器は複数の種類があっても良い）である。そこを改善できた店舗はおそらく売上にも影響してくると思われる。

のれんは、中途半端に統一感を出すのではなく、それぞれの店舗の特徴を反映した多様なデザインが功を奏している。通りの景観が確実に面白くなったと感じた。面白いと同時に、一体感が出てきている。板塀もまだ設置件数が少ないため統一感の創出まではいたっていないが、駐車場等による歯抜け空地が通りの一体感を阻害する要因であることを考えると、通りの植栽と板塀が増えることを今後期待したいところではある。

こういった街全体のリノベーション事業において重要なのは、まち・店舗が持っている資源をいかに正しく見せるか、ということに集約される。つまり情報をいかに編集していくか。平たく言えば、情報の整理である。複数ある店の構えを整理し、商品の陳列を整理し、店内の照明を整理し、レイアウトや客動線を整理し、正しく見せる。無理に統一する必要はないが、必要なこと、必要でないことを整理していくと必然的に統一感は生まれ、適切な街の景観が形成されていくだろう。

リノベーションの成果の確認のため改めて街を歩くと、当該事業以外の工事や新規店舗をいくつか目にした。地元の方々の街に対する意識が高まったようで、本事業が少しでもそのような機運の高まりに貢献でき、街が継続的に変わっていくきっかけの一端を担えたとしたら、これほどうれしいことはない。

専門家　宮原 真美子（みやはら　まみこ）

【プロフィール】
佐賀大学都市工学科准教授（建築計画）、博士（工学）
1981年　愛知県生まれ、仙台育ち
2005年　日本女子大学家政学部住居学科 卒業
2008年　東京大学大学院修士課程 修了後、設計事務所勤務
2013年　東京大学大学院博士課程 修了
日本女子大学家政学部住居学科助教を経て、2017年10月から現職

【コメント】
七日町通りは、ある限定された時代の建物群ではなく、大正・昭和初期の和館・洋館から現在の暮らしぶりまで混在している街並みに特徴があり、非常にポテンシャルを感じた。すでに残っている建物の修景は、十分に取り組まれておられるので、今後は、一つ一つの建物の修景の質から、青空パーキング等の空き地、拡幅された道路と通りとの辻のデザインへと課題がシフトしていくフェーズのように感じた。

専門家　平木 康仁（ひらき やすひと）

【プロフィール】
建築家、武蔵野大学工学部建築学科デザイン科非常勤講師
1983年　広島県生まれ
2006年　早稲田大学理工学部建築学科 卒業
2007年　ドイツ バウハウス大学ワイマール校 留学
2009年　早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程 修了
2009年　株式会社小川晋一都市建築設計事務所 勤務
2010年　有限会社アシハラヒロコデザイン事務所　勤務
2015年　SURF Architects 主宰

【コメント】
各店舗自体の変化は決して大きくはないが、街全体が同じ方向を向いて動いていると捉えれば、費用対効果は大きく、本事業を通じて街に対して働きかけるリノベーションを実施することが有益であることを改めて認識することができる。今後もこのような取り組みを継続的に行い、その他の街とも連携を取りながら、街の外に対しても積極的に発信していくことが重要だと思う。

専門家　徐 安庭（じょ あんてい）

【プロフィール】
1986年　台湾生まれ
2009年　台湾大学土木工程学部 卒業
2011年　京都大学大学院建築学専攻　研究生
2016年　東京大学大学院　修士課程

【コメント】
七日町には趣のある日本的な原風景が残されている。こうした街並みの空間の本質が残っていくように引き継いでいく。そういったリテラシーの構築が出来れば、更に素敵な活かし方、そして残し方が可能なのではないかと思った。

専門家　白井 百合子（しらい ゆりこ）

【プロフィール】
2003年　株式会社アプロード代表取締役社長

【コメント】
これまで培ってきた接客技術を向上させ、来街者に対するご満足度を高めていただくことを期待している。今後は、外国人の利用も増加すると思われる。幅広い対応力とツールなどを活かした効果的なソフト力の発揮が求められる。もう一段高い接客技術の習得に挑戦していただきたい。